

Campus Today



松本歯科大学
発行所 学校法人 松本歯科大学
長野県塩尻市広丘郷原1780
☎ (0263) 52-3100
www.mdu.ac.jp
1部60円

トルコの大実業家 アフメット・チャルック氏に名誉博士号

講演で日本とトルコの友好を語る

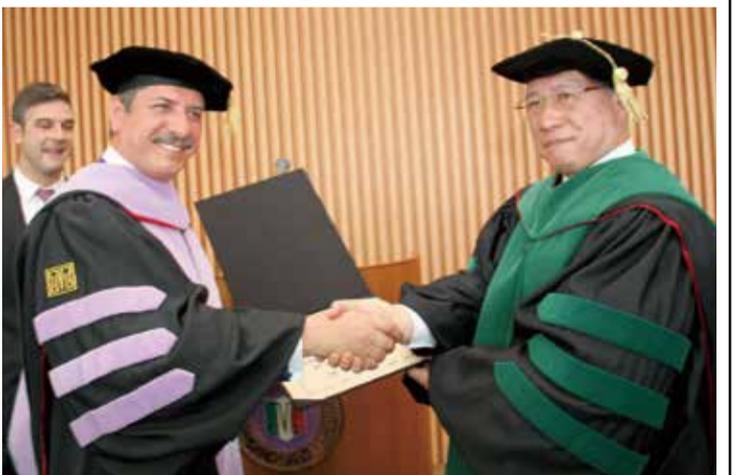
トルコの経済界を代表する大実業家であるチャルック・ホールディングスのアフメット・チャルック会長が、4月29日(火・祝)の本学観桜会開催に合わせて来日。自家用ジェット機で信州まつもと空港に降り立ち、創立30年記念棟「常念岳」の間において特別講演を行った。ビュレント・メリチ駐日トルコ共和国大使、トルコの経済・医療関係者、デザイナーの山本寛斎氏、丹呉泰健元内閣官房参与、後藤茂之衆議院議員、各官庁の官僚の方々も列席して、講演後は矢ヶ崎 雅理事長・学長から同氏に名誉博士号が授与された。

本学役員、教授、准教授らは黒い角 通信、マスメディア、鉱山業など多分帽にガウンの式服でチャルック氏を迎え、「私の歩んできた道」と題した講演を聴講した。はじめに飯島 勲特命 野においてビジネスを拡大し、トルコ教授が挨拶に立ち、「チャルック氏は います」と著名な実業家の業績を紹介 繊維、建設、金融、エネルギー、電子 された。



来賓や本学役員・校友会員、教授らに向けて講演するアフメット・チャルック氏

本学所定のガウンに身を包んだチャルック氏は「飯島先生とは10年前にお会いし、私の人生のなかでも重要な人物です。以前から飯島先生より貴学のことを伺っており、訪問したいと思っていました。が、本日、お招きいただいたことを名誉に思い、感謝の意を示された。」



矢ヶ崎理事長・学長が名誉博士号を授与

23年に和歌山県沖でトルコ軍艦エルトゥールル号が座礁・沈没した際、日本人による献身的な救助活動が行われて以来、トルコと日本の国民は相互に友好な関係を築いてきたことを話された。

また昨年開通したボスボラス海峡の海底トンネルは、日本の大手ゼネコンが主導する日本・トルコの合弁プロジェクトであり、「私は日本の企業と仕事を

メリチ駐日トルコ大使、山本寛斎氏も祝福

矢ヶ崎 雅理事長・学長は「親愛なるチャルック先生、大学に八重桜が咲き誇るこの日に先生の功績を称え、お祝いできることを嬉しく思います。これから人間性豊かな学生を育成し、歯の再生に関する研究も盛んにしていきます」と話し、名誉博士号を授与した。また高橋直之大学院歯学独立研究科長からは記念の盾が贈られた。

後藤衆議院議員は「チャルック氏の名誉博士号はその業績にふさわしい。松本歯科大学は独創的な建学精神で人材育成に努

しています」とその信条を語られた。

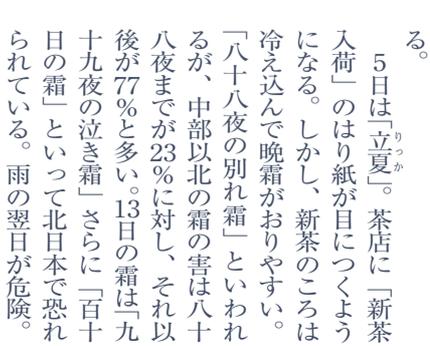
歯科医学についても話題にされ、「トルコではラマダン(断食月)が明けると知人らを集めて食事をします。歯は人間にとってとても大事なものです。ここにいらっしゃる先生方が歯の健康維持のために尽力され、さらに学生たちを育成し歯科医師として世に出していることに敬意を表します。また、創立者・矢ヶ崎 康先生の建学の理念に登場する佐久間象山は東洋の道徳と西洋の科学の融合を説いていますが、これは日本もトルコも近代化の荒波を乗り越える過程で共通していることだと思います。ですから、本日、松本歯科大学から与えられる名誉博士号は私にとって感慨深く、大きな意味があります」と述べられた。

最後に両国の国旗について触れられ、「トルコの国旗は三日月と星。日本は日の丸で太陽を表しています。合わせると24時間。つまりわれわれはお互いを補い合う存在であると思えます。どうか皆さん、シルクロードの西の果てに親友がいるというのを覚えておいてください」と締めくくられた。

「トルコにおけるインフラは日本の技術によって整備されました。チャルック氏が大きな架け橋となつて、経済、文化、学問、医療、すべての分野において両国間の協力が促進されることを確信しています」と祝辞を述べられた。

10月にイスタンブールでファッションショーを開催するデザイナーの山本寛斎氏は、「チャルック博士の式服からショーのイ

ンスピレーションを得ました。お祝いにジョン・レノンが着ていた衣装をプレゼントします」と、貴重なジャケットをチャルック氏に贈る一幕もあり、参列者から盛大な拍手が送られた。



山本寛斎氏はジョン・レノンの服をプレゼント

お天気歳時記

元日本気象協会調査役
お天気コンサルタント

ありが 厚し
有賀 淳

「落葉松(からまつ)の芽は花よりもほのほのと(風生)。カラマツの芽立ち時の美しさは目の覚めるような鮮やかさだ。「美しき五月」といわれるが、それは若葉の美しさを指すのだろう。

新緑が目に見える季節である。5月の色彩は、青葉若葉の青と緑で包まれており、降る雨は緑雨、吹く風は緑風と呼び、万緑ざわめくほどのかなり強い風は青風と形容されている。こういう造語は日本独特のもので季節的情緒がある。

また「卯月」は4月だが、卯の花の咲くのは5月。芽出しの遅いアオギリやサルスベリの木の花の出るころである。「卯の花のおう垣根にほととぎすはやも来なきて……」。幼い日に聞いた歌はまだ耳に新しい。10日からバードウィークが始まる。ホトトギス、ムクドリ、メジロ、ヒヨドリ、シジユウカラ、キジバト、ツバメも身近に見られ、山沿いではオオルリ、ウグイス、キビタキが鳴き、カッコウが鳴くと夏鳥たちの勢ぞろいだ。

日差しはもう7月並みに強まって天気変化を起こす原動力・太陽の活動は夏型に変わってくる。

5日は「立夏」。茶店に「新茶入荷」のはり紙が目につくようになる。しかし、新茶のころは冷え込んで晩霜がおりやすい。「十八夜の別れ霜」といわれるが、中部以北の霜の害は八十八夜までが23%に対し、それ以後が77%と多い。13日の霜は「十九夜の泣き霜」さらに「百十日の霜」といって北日本で恐れられている。雨の翌日が危険。

主張

「医療は医学の社会的適用」

筆者は衛生学院院长として、歯科衛生士の新生に歯科医療概論の講義を行っている。

「歯科医療」「診療」「治療」と似たような言葉がいくつもあがるが、まずはそれらの意味から確認させなければならぬ。

「治療」とは「病気をやがをなおすこと」と辞書に定義されているとおりのだが、そのためには患者さんをしていかに診察して、病気をやがの状況や原因などを把握し診断しなければならぬ。「診療」とは、この診断と治療 (diagnosis and treatment) であり医師や歯科医師が日常的に行っている医療行為 medical care を意味している。

ところで、「治療」を単に「病気をやが除くこと」 cure と狭義に解釈してしまうと、「医療」はもっとずっと幅広いものだと、区別して使う必要が出てくる。

歯科疾患を例にとれば、う蝕症は感染菌を完全に除去した時点で存在しなくなる。歯根膜炎や歯周病も原因菌を抜いてしまえば、病気が治癒する。

しかし、大きな穴や欠損が残されたままでは、噛むこともできないなど、日常生活にも不自由が生じるから、金属やプラスチックなどの人工的材料を用いた義歯や歯冠修復や義歯補綴が必要となるわけだが、これらは狭義の治療ではなく、本来はリハビリテーション (機能回復) と呼ばれるべき医療行為になる。

さらに、せつかく治療したう蝕症や歯周病などが再発しないようにするために、あるいは修復物や補綴物がきちんと機能を果たし続けるために、アフターケア (後療法) や定期的な検診、保健指導なども欠かせない。

最も大切なのは、そもそも病気が発生しないように「予防」に力を入れることであり、内容的にはアフターケアとかなりの部分で重なり合う。ただし、医療機関内だけではなく、学校や施設での集団的な検診と保健指導、予防処置などが重要であり、国や自治体による公衆衛生の充実も図られなければならない。

このように、「医療」とは予防診断治療リハビリテーションアフターケア (最初の予防につながる) という円環構造を持ち、医療機関から地域社会、国や自治体まで、時間的にも空間的にも大きな広がりを持った概念であることを理解すべきである。しばしば混同されがちな「診療」という言葉と明確に区別するために「包括的医療」 comprehensive health care という語が用いられることもある。

ここで、医学と医療の関係について考えてみることにしよう。「医学」とは「人体や病気の本質を研究し、病気の予防、治療を行い、健康を維持するための学問 (大辞泉) と定義されている。つまり、対象は人体や病気の学問である。ところが、「医療」の対象はといえば、日常生活を営んでいる人間なのだ。とくに歯科では、しばしば注意されるように、相手は「歯」ではなく「歯を病んだ人間」であることを常に忘れてはならない。

現代では「生物学的・医学的な根拠にのっとった医療 (EBM = evidence based medicine) のみを医療とみなすべきだ」とする風潮があり、それはそれで尊重すべきだが、医療には基盤となるサイエンスに立脚しつつも、アートの側面も必要なのである。かなりインテリゲンチな部分もある代替医療が、いまだに隆盛している理由も一考に値する。

かつて日本医師会を主導した武見太郎先生は「医療とは医学の社会的適用である」との名言を遺された。いかに先端的な学問的成果であろうとも、それが社会に適用されて、多くの人の役に立たないと、その価値は高いものとはならない。

西欧の中世、日本でも封建主義の時代には、古代の聖典 (西歐は聖書など、中国や日本では四書五経など) の訓話 (解釈) といった、実際の社会生活にはまったく無用なものが高級な学問だとされてきた。幕末期に本学の学祖・福沢諭吉先生が「実学こそが本学の学問だ」と喝破されたのは、実に画期的なことだったのである。

人口の高齢化が進行している現代のわが国において、歯科医療とその基盤である歯科医学は、時代と社会が求める「実学」のなかでも最も大切なもののひとつだと考えられる。

近未来の歯科医師、歯科衛生士として、歯科医療の担い手となる学生諸君には、自分や家族を含めて多くの人がびとに幸せにつなげるためにも、精一杯勉学に励んでほしい。

(笠原 浩)

松本歯科大学市民公開講座
 歯科補綴学講座・黒岩昭弘教授が講演
 「入れ歯と上手につきあう方法」



講演する黒岩教授

4月5日 (土)、松本歯科大学市民公開講座が本学病院2階会議室で開かれ、歯科補綴学講座の黒岩昭弘教授が「入れ歯と上手につきあう方法」と題して講演した。口の健康を「育てる」「守る」「取り戻す」をテーマにした5回シリーズの一環で、同講演は2月に予定されていたが大雪のため中止となり、受講希望者から「日をあらためて実施してほしい」という声が多かったため開催の運びとなった。

黒岩教授は、はじめに「歯を失うと咀嚼能力が低下するのだから、一本でも多く今ある歯を残すように心掛けてください」と天然歯の重要性を説いてから、入れ歯の種類について説明。「入れ歯の構造を理解していれば、損傷や微妙な不具合を感じることができません」と話し、部分床義歯やオーバーデンチャー、テレスコープ義歯、全部床義歯の構造や特徴について解説した。

また、「入れ歯を入れて痛いと感じるのは、かみ合わせが合っていないか、粘膜との適合が合っていないのが原因。微調整が必要ですが、馴染ませるためには舌の動き方や噛む練習も必要です」とアドバイスした。

入れ歯を適切に洗浄すると口内炎予防や歯垢付着の防止、誤嚥性肺炎や心内膜炎の原因菌を排除できるとして、正しい洗浄の仕方を指導し、入れ歯安定剤の使用方も紹介した。

黒岩教授は「入れ歯の装着によって10歳は若返る顔になる」とも「あわてて入れ歯を付けてはダメ」とも、ときおりユーモアを交えた語り口で約40人の聴講者を惹きつけ、講演後は個別の質問に丁寧に応じた。

特に、メールの結びに何と云ったらいかがいかな私を悩ますことがたびたびあります。敬具 (Sincerely, Yours truly) では堅過ぎますが、Best, Take care などでは馴れ馴れしく感じる場合もあります。

カナダ人や英国圏の人たちは「じゃーね」のような意味で Cheers を使いますが、アメリカでは「乾杯」の時しか使わないので、私にはちよっと違和感があります。

それで今のところとりあえず Best wishes を使っています。

新入生 163 人が入学
 松本歯科大学・衛生学院 入学式



告辞を述べる矢ヶ崎理事・学長

4月10日 (木)、2014年度松本歯科大学衛生学部および大学院歯学独立研究科、同衛生学院の入学式が本館7階講堂で挙行され、新入生総勢163人が学院歯学独立研究科、同衛生学院の入学式が本館7階講堂で挙

んだ。入学したのは歯学部学生123人 (第1学年96人、第2学年編入27人) と大学院生7人、衛生学院生33人。校歌斉唱の後、矢ヶ崎 雅理事長・学長は「本学は設備のすばらしさ、教授陣の質の高さも世界に誇れるもので、海外からの留学生も多く、名実ともに国際大学を目指していきます。創立者が作った校歌を建学の理念とともに胸に刻んで、勉学に励んでください。しっかりと予習復習をして、授業を休まず、分らないことはその日のうちに解決すること。衛生学院歯学部衛生士学科の皆さんは、単なる歯科医師の補助ではなく、これからは自立した歯科衛生士を目指してもらいたい。大学院生はトップレベルの研究成果を目指してください」と新入生を励まされた。

歯学部新入生を代表して花井 伶君が「松本歯科大学学生の誇りを持ち、本学の建学の理念をわきまえて、歯科医師の理想を目指し、初心を忘れることなく、さらなる向上心をもって勉学に励むことを誓います」と力強く宣誓した。

式後は学生ラウンジで本学校友会・父母会主催による新入生歓迎会が開かれ、法人役員や校友会役員、教員らが挨拶に立ち

2011年3月12日に発生した長野県北部地震で、本学は東

新入生に祝いの言葉を述べ、新入生たちはあらためて歯科医学の道に進む決意を固めた。

長野県北部地震義援金の寄付に対し
 栄村より本学に感謝状

日本大震災と関連して学内の職員や観客会の来場者から義援金を募り、本学法人からの義援金をあわせて、総額100万円を被災地の長野県上水内郡栄村へ寄付した。その行為に対し、このたび栄村より感謝状が贈られた。

4月23日 (水)、齋藤家富栄村副村長が本学を訪れ、「おかげさまで村内のライフラインはほぼ復旧をいたしました。心温まる義援金をありがとうございました。」

4月23日 (水)、齋藤家富栄村副村長が本学を訪れ、「おかげさまで村内のライフラインはほぼ復旧をいたしました。心温まる義援金をありがとうございました。」

被災地の長野県上水内郡栄村へ寄付した。その行為に対し、このたび栄村より感謝状が贈られた。

4月23日 (水)、齋藤家富栄村副村長が本学を訪れ、「おかげさまで村内のライフラインはほぼ復旧をいたしました。心温まる義援金をありがとうございました。」

被災地の長野県上水内郡栄村へ寄付した。その行為に対し、このたび栄村より感謝状が贈られた。

4月23日 (水)、齋藤家富栄村副村長が本学を訪れ、「おかげさまで村内のライフラインはほぼ復旧をいたしました。心温まる義援金をありがとうございました。」

被災地の長野県上水内郡栄村へ寄付した。その行為に対し、このたび栄村より感謝状が贈られた。

美しい八重桜と多彩なイベントを楽しむ 観桜会・松濤祭



左から飯島 勲特命教授、メリヒウス医師、山本寛斎氏、チャルック氏

春恒例の観桜会・松濤祭が開催され、大勢の招待客や市民がさまざまな催しを楽しんだ。また、当日はトルコの実業家アフメット・チャルック氏が来学し、美しい八重桜を堪能した。

春恒例の観桜会が4月29日(火)祝、本学キャンパスで催され、大勢の人々で賑わった。大学内の八重桜を地域の皆さんにも楽しんでいただくようと、1995年から開催してきた観桜会は今年で19回目。花の名所として広く知られたり、今回はトルコの実業家アフメット・チャルック氏や大使館の高官、各官庁の官僚の方々も訪れて、その美しさを堪能された。

当日、八重桜はほぼ満開となり、淡黄色の鬱金、濃いピンク色の楊貴妃、薄紅色の普賢像など色鮮やかな各種の桜が来場者の目を楽しませた。

病院北側には、焼きそばやたこ焼き、クレープ、風船などを売る屋台が軒を連ね、中庭では野点の席が設けられて、琴の生演奏の調べも響いた。

病院1階のエントランスホールでは、病院の施設紹介や骨密度



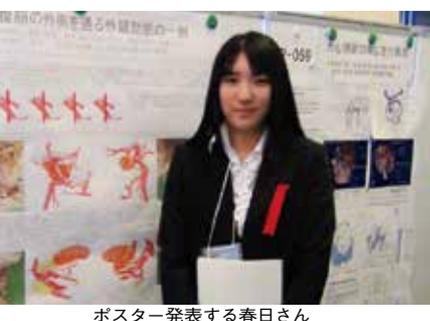
チャリフェスで激走する子どもたち

度測定、お口の健康チェック他多数のブースが設けられた。また、前島信也医科院長による「がんの予防・治療と当院の取り組み」と題して講演が行われ、大勢の来場者が聞き入っていた。

別に子どもたちがキャンパス南側に設けられた150メートルの特設コースでタイムを競った。観桜会と共に学園祭「松濤祭」も開催された。今年のテーマは「飛翔」。伝統と先輩たちの情熱を引き継ぎ、より一層の向上心を持って飛躍していこう、という意気込みで学生たちが企画・運営にあたった。

体育館では、クイズ大会や豪華賞品が当たるビンゴ大会も大勢の参加者を集めた。衛生学院生によるブラッシング指導も親子連れに大好評。また、ミス松濤コンテストでは竹内麗奈さん(第4学年)が栄冠に輝いた。

「飛翔」は「来場された方々に楽しんでもらえたいと思います。地域の方々との交流によって大切な人間関係を学ぶことができ、僕たちにとって貴重な財産になりました」と話していた。



ポスター発表する春日さん

第4学年春日美里依さんが外頸動脈について発表

日本解剖学会総会・全国学術大会

3月27日(木)から29日(土)にわたり第119回日本解剖学会総会・全国学術大会が栃木県下野市の自治医科大学キャンパスで開催された。本学第4学年の春日美里依さんが、第2学年

時の解剖学実習において勉強させていただいたご遺体に見出し「顎二腹筋の外側を通る外頸動脈」に関するポスター発表を行った。

外頸動脈の約96%は、顎二腹筋後腹と茎突舌骨筋の内側を通る。ところが、春日さんたちが担当したご遺体の外頸動脈は、前記二筋の外側にみられ、教科書の記述や実習書に掲載されて

春日さんは第3学年に進級した後も、本例に対する好奇心は継続していたものの、多くの科目の講義や実習、試験に専念する必要があり、学会発表に対する日常的な取り組みは困難であった。そこで全ての試験が終了した後、外頸動脈のスケッチに取り組みよう指示したところ、春日さんは元々イラストを描くことが好きとのことで、作業は予想以上にはかどった。話し合いを重ねスケッチを描き直すにつれ、理解が十分に深まったので、発表当日までに口頭で説明できるように練習を重ねた。

新教授紹介 (2014年4月1日付就任)

松本歯科大学病院
病院長・病院教授 高木 宣雄



このたび病院長に就任させていただくことになりました。本学を1期生として卒業後、あまり母校を訪れることもなかった開業歯科医の私が、突然の大役をお引き受けることになりました。その重責に身の引き締まる思いです。

高木 宣雄教授 略歴	
1978年3月	松本歯科大学歯学部 卒業
1978年6月	岐阜大学医学部附属病院 医員
1980年4月	同 助手
1981年8月	岐阜大学医学部 助手
1986年7月	高木歯科医院 院長
1995年12月	岐阜大学医学部 非常勤講師
2006年4月	岐阜県歯科医師会 理事・参与
2014年4月	松本歯科大学 病院長 病院教授

わが国は超高齢化社会を迎え、歯科に求められるものも変わってきております。医療連携、地域包括ケアが推進されており、そのなかで歯科が責任を持って果たさなければならぬ役割は多くあります。地域歯科医師会の皆様と共に、医療・介護・福

口腔細菌学講座 教授 吉田 明弘



このたび九州歯科大学より口腔細菌学講座に赴任いたしました吉田明弘と申します。学内および学友の皆様はこの紙面をお借りしてご挨拶申し上げます。

私はこれまで、大学院で口腔外科学、教員として予防歯科学講座に在籍しておりました。在籍していた講座は臨床講座です

が、大学卒業後は一貫して口腔細菌学の研究を行ってまいりました。皆様ご存じの通り、細菌学・感染症学は口腔疾患と非常に密接な関係があり、歯科臨床と直接関連する基礎医学分野の一つです。ですから、学部学生、研修医、大学院、卒業後と全てのステージで細菌学・感染症学は必須といえます。

今回、歯科基礎医学講座である口腔細菌学講座を担当させていただきます。口腔細菌学講座を担当させていただきます。基礎・臨床講座および学内外問わず、本学の皆様と連携して松本歯科大学から歯科医学を盛り上げてまいりたいと思っております。皆様のご指導を何卒よろしくお願ひ申し上げます。

吉田 明弘教授 略歴	
1993年3月	九州大学歯学部 卒業
1999年3月	九州大学大学院歯学研究科 修了
1999年4月	日本学術振興会特別研究員 (PD)
1999年7月	Postdoctoral fellow, State University of New York at Buffalo
2003年4月	九州歯科大学予防歯科学講座 助手
2007年4月	九州歯科大学保健医療フロンティア科学分野 助教
2012年4月	九州歯科大学保健医療フロンティア科学分野 講師
2014年4月	松本歯科大学口腔細菌学講座 教授

東信地区の医療スタッフが参加し実践的な講習

長野県摂食嚥下リハビリテーション研究会

3月15日(土)、16日(日)の2日間にわたり、上田市鹿教湯病院にて長野県摂食嚥下リハビリテーション研究会の分科会が開催された。障害者歯科学講座

座(小笠原 正教授)が代表世話人を務める同研究会の分科会は今年で4回目となり、今回は主に東信地区の医療スタッフが参加し、参加者数は37人となった。参加者の職種は、嚥下リハビリに関わりの深い医師、歯科医師、看護師、歯科衛生士、作業療法士、言語聴覚士、介護職員などで、知識や技術だけでなく職種間の親交を深めた。

講習は、摂食・嚥下リハ総論から始まり、嚥下に携わるさまざまな職種の方々に講義をしていただいた。実習は、患者に対して行う検査や訓練、緊急時

(病院特殊診療 助手 鈴木貴之)

